

国 運 審 第 2 3 号
令和元年10月15日

国土交通大臣 赤羽 一嘉 殿

運輸審議会会長 原田 尚志

答 申 書

スカイマーク株式会社からの混雑空港運航許可申請について

令元第9001号

令和元年9月18日付け国空事第751号をもって諮問された上記の
事案については、審議した結果、次のとおり答申する。

主 文

スカイマーク株式会社の申請に係る混雑空港（成田国際空港）を使用して運航を行うことについては、許可することが適当である。

理 由

1. 申請者は、成田（成田国際空港）～中部（中部国際空港）間において国内定期航空運送事業を営営するため、本件申請を行ったものである。

申請者の運航計画によれば、成田～中部間の路線については、令和元年11月29日からボーイング式B737-800型機を使用し、1週間に2往復の運航を行おうとするものである。

2. 混雑空港を使用して国内定期航空運送事業を営営しようとする本邦航空運送事業者は、混雑空港ごとに、当該混雑空港を使用空港とする路線に係る運航計画を記載した申請書を国土交通大臣に提出することとされており、国土交通大臣は、航空法第107条の3第3項各号のいずれにも適合するものであると認めるときは、同条第1項に基づき、当該混雑空港を使用して運航を行うことについて許可をすることとしている。なお、その許可の基準は以下のとおりである。

- (1) 運航計画が航空機の運航の安全上適切なものであること
- (2) 競争の促進、多様な輸送網の形成等を通じて利用者の利便に適合する輸送サービスを提供するものであること等当該混雑空港を適切かつ合理的に使用するものであること

3. 当審議会に提出された資料、所管局から聴取した説明等に基づいて検討した結果は次のとおりである。

- (1) 本件申請は、次のとおり上記2. の要件を満たしている。
 - ① 成田国際空港においては、発着規制として、1週間当たりの発着

回数の上限を5，753回にするとともに、30分間の発着回数について6時台から21時台までの間は29～34回、22時台は20～22回及び23時台は15～17回とするなどの発着調整基準が設けられている。

申請者の運航計画に定める成田国際空港での発着は、他の航空運送事業者を含む時間帯ごとの使用状況等から判断すれば、この発着調整基準に合致するものと認められる。

また、申請者の運航計画は、成田国際空港における航空保安業務提供時間からも妥当なものであり、前記発着調整基準に反するおそれはないものと認められる。

以上により、申請者の運航計画は航空機の運航の安全上適切なものと認められる。

- ② 成田～中部間の路線では、現在、全日本空輸株式会社が1日3往復、日本航空株式会社が1日2往復の運航をそれぞれ行っている。

申請者によるこれらの路線の運航は、他の本邦航空運送事業者の運航とあいまって、一層の多頻度運航と競争の促進が図られ、これにより国際航空の拠点である成田国際空港との乗り継ぎ便を含む利用者の利便の一層の向上に寄与するものであること等を勘案すると、本件申請は成田国際空港を適切かつ合理的に使用するものであると認められる。

- (2) 以上に掲げる理由により、本件申請は航空法第107条の3第3項各号に掲げる基準に適合するものとして、同条第1項に基づき、国土交通大臣が本件申請を許可することは適当であると認める。